



国内初!!
芥川龍之介の
顕彰施設を
つくりたい!!

写真:芥川龍之介
国立国会図書館「近代日本人の肖像」

仮称 芥川龍之介記念館

クラウドファンディング実施中!!

数々の名作を生み出した「書齋」の再現など、芥川の生きた時代を「体感 (feel)」できる施設を一緒につくりませんか?



City of Kita

東京都北区



記念館 完成予想図

東京都北区では、令和8年度の(仮称)芥川龍之介記念館開館を目指しています。記念館では、芥川が数々の名作を生み出した書齋を筆記具や文机、蔵書など、現存する資料を基に可能な限り忠実に再現する予定です。来館者は再現された書齋に立ち入ることができ、「体感(feel)」して楽しめるようにします。芥川が暮らした場所に開館する記念館に、みなさまのご支援、ご協力をお願いいたします!

～ 北区田端と芥川龍之介 ～

大正3年、東京帝国大学に通う学生であった芥川は、両親とともに田端435番地(現1-20)に新築転入した。同5年、「鼻」が夏目漱石に激賞され、卒業後は「芋粥」などを文芸誌に発表し新進作家として文壇に登場。その後、芥川は教員生活と並行し新聞紙上で文筆活動にも精を出し、鎌倉、横須賀などにしばらく居住したが、同8年、筆一本で立つことを決意し再び田端へと戻り創作に邁進する。名声が高まるにつれ書齋には訪問客が増え、近くに暮らしていた室生犀星、久保田万太郎らの文士、小杉放庵、香取秀真らの芸術家たちも行き来を重ねるようになる。田端時代の交友関係は「田端人」「田端日記」「東京田端」などの作品で描かれている。

人好きのする下町気質を存分に発揮し、芸術の分野や年齢にとらわれることなく交際を求め、田端文士芸術家の中心となった芥川は田端の「王様」と形容される存在となった。

しかし昭和2年7月24日、「唯ぼんやりした不安」という言葉を遺して自ら命を絶った。忌日は「河童忌」と呼ばれる。



書齋の再現エリア(写真は田端文士村記念館にある復元模型の書齋部分)

クラウドファンディング

寄附の方法

① 納付書を使って金融機関から

右記申込フォームからお申込みください。受付後、納付書を送付しますので、金融機関からご寄附いただけます。



申込フォーム

② スマートフォンやパソコンから

ふるさと納税サイト「さとふる」からのご寄附は右記の北区ホームページをご覧ください。



北区ホームページ

寄附金控除が受けられます!

ご寄附は「ふるさと納税」として取り扱われ、確定申告をすると、寄附額のうち、2,000円を超える部分について、一定の限度額まで税金の控除が受けられます。

確定申告の必要のない給与所得者等で、一定の要件を満たした場合は、申告しなくても控除が受けられる「ワンストップ特例制度」があります。

※ 税に関する質問は、お住いの住所を管轄する税務署や関係機関にお問合せください。



感謝の気持ちとして…

寄附金額1万円以上の方にはお礼状をお送りいたします。

なお、5万円以上ご寄附いただいた方のお名前は、開館まではホームページ内に掲載、開館後は、記念館に銘板を設置いたします。(原則3年間)

※当該寄附金は地方自治法第96条第1項第9号に定める「負担付寄附」としてお受けするものではありません。「負担付寄附」ではなく、「用途を指定した寄附」としてお受けするものであることをご了承ください。

寄附のお申し出・お問合せ先

東京都北区地域振興部文化施策担当課
〒114-8503 東京都北区王子1-11-1

TEL 03-5390-0093
FAX 03-5390-0097